

どう乗り切る原発ゼロの夏

松江市上宇部尾町

梶田 勝 72歳

政府は7月1日から9

月30日までを節電期間と定め、電力需要が最も増大する夏場を乗り切るため全国民に節電を呼び掛けている。

福島第一原発の事故後初めて原発稼働ゼロの夏を迎え、電力各社は安定した電気を供給するため綱渡りの操業を求められているという。

東日本に比べ西日本の電力各社は電力のピークに対する供給余力に余裕がなく、周波数変換所を経由した緊急融通も視野に緊迫した需給操作から目が離せない状態にあるようだ。

原発事故の恐怖を経験した多くの国民は原発のない社会を望んでいると思うが、原発全てが休止した今夏をどう乗り切る

か、脱原発依存の社会を実現する試金石と捉えたい。

私は年一回東京で開催される会議に出席する機会があるが、そのたびに感じるのは異常なまでのネオンの明るさである。これをまさしく不夜

城というのであろうが、無駄の象徴としか思えない。

脱原発を志向するのであれば、身の回りで浪費される不必要な電気は使わない意識改革を徹底するとともに、国民挙げて「隣より始めよ」を実行することが求められている。